

# Latent fetal distress の診断と対策

東京大学医学部産婦人科

桑原慶紀・小山照夫  
神保利春・坂元正一

Latent fetal distress の胎児予後を改善するには、まず第一に早期に適確に診断し、適切な時期に分娩を誘導する必要がある。現在 latent fetal distress の内分泌生化学的診断法として、母体尿中 estriol 値を始めとして数種の検査法が一般臨床に用いられているが、必ずしも満足すべき結果は得られていない。又、high risk 妊娠においては、合併症の種類や病態によって、それぞれ有用な胎児・胎盤検査法を選択する必要があると考えられる。本研究では、妊娠中毒症例を対象に、各種胎児胎盤機能検査法の意義を検討した。

**対象：**妊娠中毒症 17 例（高血圧と蛋白尿を伴う症例 4 例，高血圧のみ 1 例，蛋白尿のみ 12 例）を対象に、妊娠 28 週以後定期的に母体末稍血を採取した。

**方法：**血中 total estriol ( $TE_3$ )，unconjugated estriol ( $UE_3$ )，unconjugated estetrol ( $UE_4$ )，11-Deoxycortisol，human placental lactogen (hPL) は RIA 法で， $\beta_1$ -SP<sub>1</sub>-glycoprotein は immudiffusion 法，胎盤酵素 (CAP, LAP, HSAP) は比色法で測定した。

**成績：**①  $UE_3$  (図 1, 図 2) は、子宮内胎児死亡例 (症例 1)，子宮内発育遅延例 (症例 2, 6)，Fetal Distress のため帝王切開を行った例 (症例 3, 7) に於て正常域以下の低値を示した。その他は正常域，或いはそれ以上の値を示し、全例において胎児発育遅延は見られなかった。②  $UE_4$  (図 3) は、子宮内胎児死亡例 (症例 1) や症例 2, 3 でも正常値を示している。③ 11-Deoxycortisol (図 4) は、妊娠中毒症重症例では高値を示し、子宮内胎児死亡例 (症例 1) では、死亡前に急激な下降が認められた。④ hPL (図 5) と  $\beta_1$ -SP<sub>1</sub>-glycoprotein は、重症度に比例して低値を示した。⑤ 胎盤由来酵素値は、中毒症例でも正常値を示す症例が多く見られた。

**考察：** $TE_3$  と  $UE_3$  は類似した動態を示し、中毒症妊娠の胎児予後を良く反映し、胎児胎盤機能検査としての意義が認められた。しかし、 $UE_4$  は中毒症例に関しては、胎児予後との関連は見られず、検査としては不相当と判定された。11-Deoxycortisol は、児の副腎皮質の cortisol 分泌能を反映し、重症中毒症例では児への多大なストレスのため高値を示し、児の状態を良く反映する結果を得た。hPL と  $\beta_1$ -SP<sub>1</sub>-glycoprotein は、中毒症例における胎盤機能の指標となりうる事が判明した。胎盤由来酵素は、一回の測定値のみでなく、その動態も合わせて考えると異常の発見に役立つが、その解決は難しく、補助的な検査法と言えらるであろう。

以上 9 項目の胎児胎盤機能検査の妊娠中毒症例の管理における意義を検討したが、単一の測定項目に頼ることなく、多項目の検査を施行し、胎児の状態を多面的に把握することが必要であると考えられる。

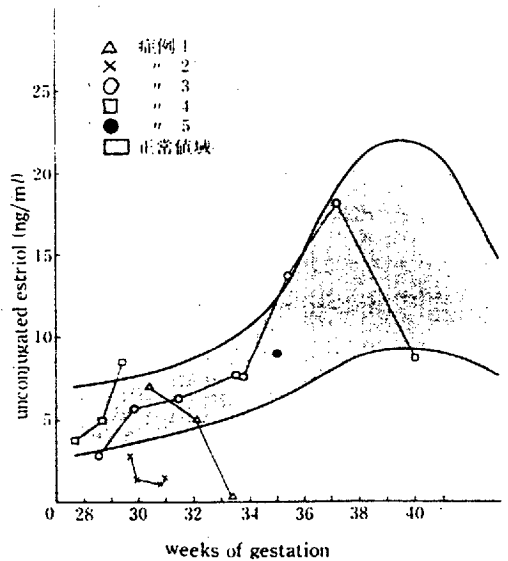


図 1) 妊娠後期母体血清中非抱合型 estriol 濃度の推移 (高血圧を伴う妊娠中毒症例)

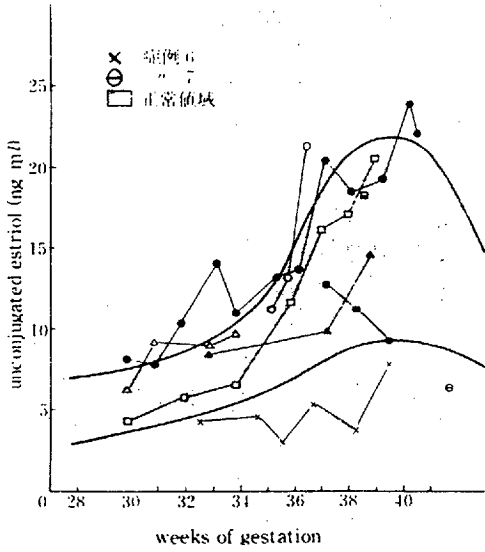


図 2) 妊娠後期母体血清中非抱合型 estriol 濃度の推移(高血圧を伴わない妊娠中毒症例)

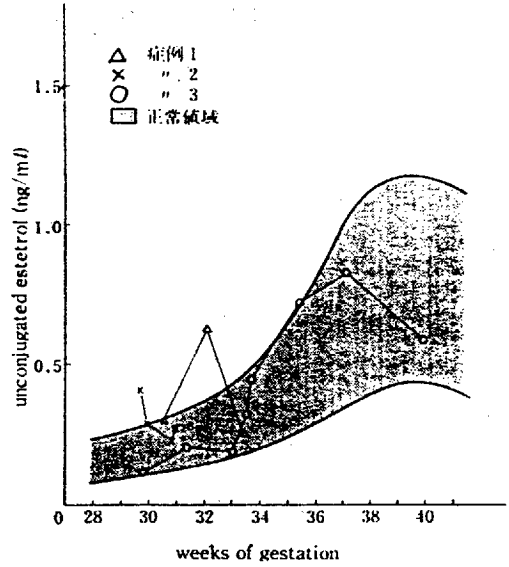


図 3) 妊娠後期母体血清中非抱合型 estretol 濃度の推移(高血圧を伴う妊娠中毒症例)

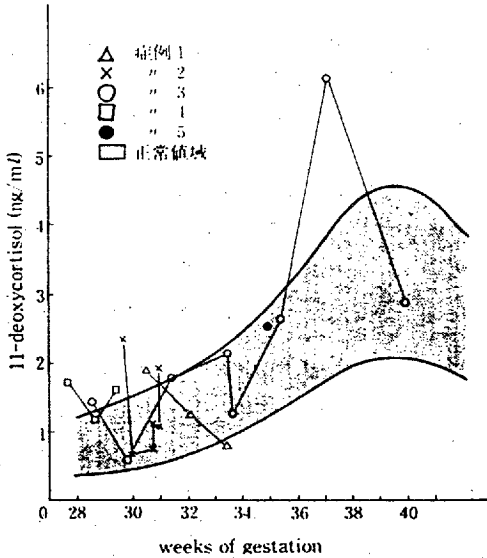


図 4) 妊娠後期母体血清中 11-deoxycortisol 濃度の推移(高血圧を伴う妊娠中毒症例)

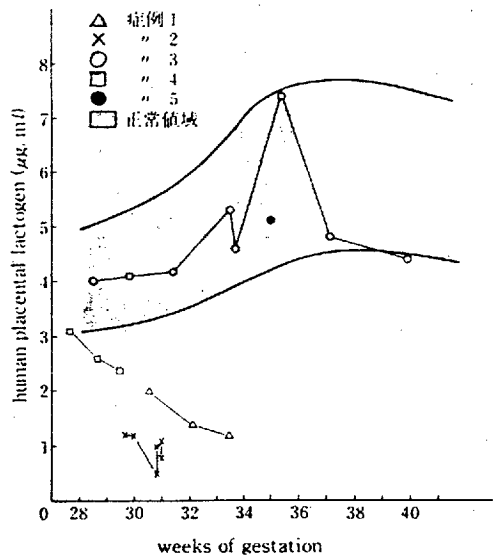


図 5) 妊娠後期母体血清中 human placental lactogen (hPL) 濃度の推移(高血圧を伴う妊娠中毒症例)



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



Latent fetal distress の胎児予後を改善するには、まず第一に早期に適確に診断し、適切な時期に分娩を誘導する必要がある。現在 latent fetal distress の内分泌生化学的診断法として、母体尿中 estriol 値を始めとして数種の検査法が一般臨床に用いられているが、必ずしも満足すべき結果は得られていない。又、high risk 妊娠においては、合併症の種類や病態によって、それぞれ有用な胎児・胎盤検査法を選択する必要があると考えられる。本研究では、妊娠中毒症例を対象に、各種胎児胎盤機能検査法の意義を検討した。